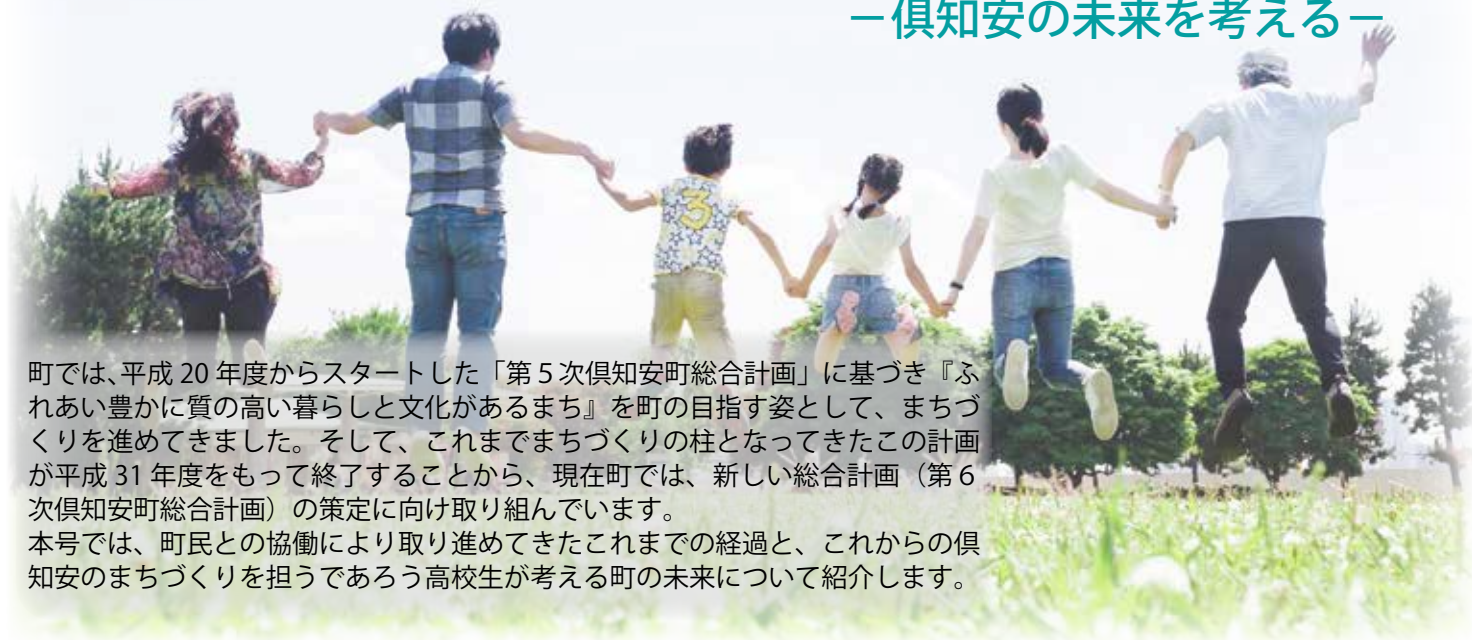


いつまでもこの町で

— 倶知安の未来を考える —



町では、平成 20 年度からスタートした「第 5 次倶知安町総合計画」に基づき『ふれあい豊かに質の高い暮らしと文化があるまち』を町の目指す姿として、まちづくりを進めてきました。そして、これまでまちづくりの柱となってきたこの計画が平成 31 年度をもって終了することから、現在町では、新しい総合計画（第 6 次倶知安町総合計画）の策定に向け取り組んでいます。本号では、町民との協働により取り組んできたこれまでの経過と、これからの倶知安のまちづくりを担うであろう高校生が考える町の未来について紹介します。

進むべき方向を示す
まちづくりの羅針盤

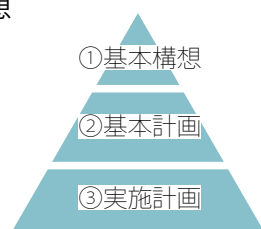
総合計画は自治体運営の羅針盤ともいえるもので、町民をはじめ町に関わる全ての人々が、協力してまちづくりに取り組んでいくために進むべき方向を示した方針です。総合計画はこれからのまちづくりの基本的な方向と、その実現のための各分野の施策などを明らかにするものであり、特に第 6 次倶知安町総合計画は、人口減少社会を迎える中、自治体の恒久的な持続を目的に平成 28 年 2 月に策定した「倶知安町まち・ひと・しごと創生総合戦略」との整合性が図られるものです。

また、第 6 次の総合計画は、その期間中に北海道新幹線倶知安駅および北海道横断自動車道・倶知安インターチェンジ開業が予定されていることから、今後のまちづくりの方向性を決める重要な計画となるものです。



第 6 次倶知安町総合計画
計画の期間は 2031 年までの 12 年間

「第 6 次倶知安町総合計画」は基本構想・基本計画・実施計画の 3 層で構成します。



①基本構想

基本構想は、町の目指すべき将来像と、その実現のための基本方針や施策の要点を示すものです。計画期間は 2020 年から 2031 年までの 12 年間とします。

②基本計画

基本構想に基づき、その実現を図るために必要な基本施策を総合的・体系的に示したものです。計画期間は基本構想と同じく 12 年間で、諸情勢の変化により柔軟に見直しを図り対応します。

③実施計画

基本計画に示した施策を具体的に実施する事業を定めるもので、PDCA サイクルに基づき 1 年ごとに事務・事業評価を行うとともに、評価に基づき見直しを行います。

	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
基本構想	12 年											
基本計画	12 年 ※必要に応じて随時修正。6 年経過時 KPI による中間評価を行い、必要に応じて修正											
実施計画	1 年	※事業期間中、1 年ごとに事業評価を行いながら、評価に基づき見直し										

ともに進めるまちづくり
「まちづくり町民アンケート」

第 6 次倶知安町総合計画の策定にあたり、町では町民の意見を取り入れるため、平成 29 年 5 月から約 1 ヶ月間、まちづくり町民アンケートを実施しました。

このアンケートでは、15 歳以上の町民から無作為に抽出した 2000 人を調査対象としたほか、外国人住民に対しても英語版のアンケート用紙を作成し送付しました。

また質問項目の設定については、「住み心地」「これから重視していくべきまちづくりの分野」「重視すべき施策」などに加え、「倶知安の未来について」の自由記載欄を設けるなどし、前回調査時から若干の変更を加えたものの、比較ができるよう、留意しました。

◆回答数／650 人
◆回収率／32.5 割

	重視すべき施策	重視しなくてよい施策
1	除排雪対策の充実	町全体の国際リゾート化
2	医療の充実	転入者への助成制度
3	公共交通の充実（バス・タクシー・JR）	男女共同参画の推進
4	高齢者福祉・介護支援の充実	町内会や自治活動の活発化
5	防犯対策の充実	歴史・文化・芸術振興の充実
6	雇用対策の充実	外国人であっても住みやすい町
7	防災対策の充実	工業振興

多様な意見による気付きの機会
「まちづくりワークショップ」を開催

町では第 6 次倶知安町総合計画の策定に向け、その素案をつくるにあたり、役場職員 31 名による庁内ワークショップと、公募したメンバーを含めた一般町民 30 名からなる町民ワークショップを設置しました。

また、参加メンバーの構成は第 6 次の計画期間中である 2031 年に向けて、まちづくりの中心となるであろう世代と なっています。

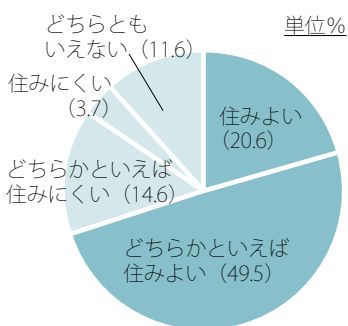
このワークショップは、毎回まちづくりに関連する検討テーマについて、先に行った町民アンケートの結果も踏まえた上で、現状を把握し、目指す将来像との間にあるギャップ（課題）について、その解決方法を含め検討していき、最終的に各グループが考えた、めざす将来

各グループが考えた町の将来像

学び・育ち・暮らせるまち
ずっと心に描く未来予想図
ようこそ倶知安 ぜび倶知安
戻ってきたくなるまち
Enjoy Town Kutchan
町民ファースト
それぞれに物語があるマチ
～まちは楽園～
Made in くっちゃん

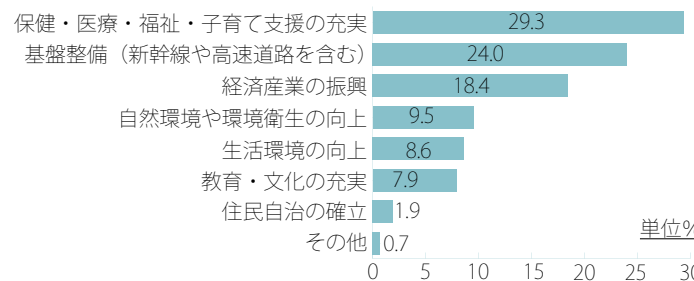
まちの「住み心地」について

回答者のうち 70.1%が「住みよい」または「どちらかといえば住みよい」と回答しました。なお、アンケートの中では住み心地についてその内容を詳しく聞いており、住み心地の良さを感じる要因としては『自然環境』によるものが多く、一方で、住み心地が悪いと感じる項目として『買い物や通院など町内での交通手段』と『自由に参加できるサークル』などがあげられました。



これから重視していくべきまちづくり分野について

1 位が「保健・医療・福祉・子育て支援の充実」であり、前回の調査と同様の結果となりました。なお、ほぼすべての年代で上位の項目に変化ありませんが、子育て世代では「教育・文化の充実」が「生活環境の向上」を上回りました。



これから重視して取り組むべき施策について

選択肢を『重視すべき施策（重視＋どちらかという重視）』と『重視しなくてよい施策（どちらかという重視しない＋重視しない）』として整理しました。重視すべき施策として最も選ばれたのは、前回の調査と同様「除排雪対策の充実」で、95%と高く、また 3 番目に多かった「公共交通の充実」は、前回調査時の 66.2%から 90.4%ととなり、冬季の観光客の増加によるタクシー不足などがその要因として考えられます。

なお、アンケートの結果とワークショップについて、いずれも詳しいものを町ホームページに掲載しています。

http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/town_administration/matidukuri/2698/





きうち ひろあき 木内 尋章さん 俱知安農業高校 3 年
いしだて か な 石館 香菜さん 俱知安高校 2 年
あらき かなん 荒木 香南さん 俱知安農業高校 3 年
あだち りょうご 足立 涼悟さん 俱知安高校 2 年
うたない あやか 打田内 彩花さん 俱知安農業高校 2 年
こしぎき み ゆ 越崎 未友さん 俱知安高校 2 年

全国的に人口減少と少子高齢化が進む中で、より若い世代の社会参加が期待されるどころであり、地域人材の活用や育成といった観点からも、若い世代のまちづくりへの動機づけ、参画が課題となっています。

俱知安町においても、これまでまちづくりを担ってきた世代の減少は避けられませんが、第6次俱知安町総合計画の策定が進む中、町民ワークショップでは「高校生の活躍する場をつくることの重要性」についても議論となりました。総合計画の策定のみならず、これからのまちづくりにおいては、より若い世代の参加が大きな意味を持つと考えられます。

そこで町では、高校生のまちづくりに対する「思い」や「考え」を知り、今後活かそうと、高校生によるまちづくりワークショップを実施し、まちづくりに対して深く考えてもらうとともに、その結果をもとに、俱知安の今後について西江町長と話し合う機会を設けました。

■日時：8月28日(火) 16時～
■場所：くっちゃんまちなかベース「イーバシヨ」

STEP1

参加した高校生は、まず自分たちが暮らす（学ぶ）町、俱知安町の「良いところ」「悪いところ」「こうなって欲しい・こんなことをしたらよい」といったことについて、意見を出しました。出された意見は80件以上あり、図書館が欲しいといったものや、バス・電車のことなど、高校生にとって日常的なものから、福祉・環境・雇用や除雪に関することなど多岐にわたりました。



STEP2

全員の出した意見から、その意図が共通していると思われるカードを小さな島にまとめていき、それぞれの島にタイトルを付けていきます。この工程が、ワークショップでは重要な部分でしたが、高校生は頭を悩ませながらも、作業を進めていきました。

STEP3

小さな島同士を、さらに大局的に見れば、主旨が同じ方向と思われるものを、大きな島にまとめながら、タイトルをつけ、自分たちの考える「俱知安のまちづくり」について、8つのタイトルにまとめ上げました。



STEP4

最終的にまとめ上げたタイトルを将来のまちづくりのテーマとして、自分たちが最も重要な柱とを感じるものを木の幹に、それを支える要素となるものを根に、そして、幹に置いたテーマを基本軸として各分野に広がるテーマを枝や葉、実のように配置し、大小の島を実線で囲み、氏名を記入して、この日のワークショップの作業を終えました。

まちづくりへの思いを伝え共有する 高校生と町長が「まちづくりトーク」

8月29日(水)、高校生たちは、前日に協力しまとめた俱知安のまちづくりについて、西江町長に発表を行うため、役場町長室を訪れ、この日、参加者を代表して発表を行った木内さんと荒木さんは自分たちの「思い」や「考え」について、次のように話しました。

「私たちは、昨日のワークショップでそれぞれが意見を出し合い、協力して話し合う中、最終的に『いつまでも俱知安に住み続けたい』というテーマを決定し、多くの町民にそう思ってもらいたいと考え、それを木の幹に据えました。



そして、木を支える根には『まちの安全を守ろう』、幹から伸びる枝や葉に、『町のじまんをもっと広げたい』『ウェルカム トウ クッチャン』『みんなで集まろう！』『俱知安の長い冬を楽しむ！』『グローバルな町民』『俱知安に来て！』といった、それぞれの考える俱知安のまちづくりの木をつくりあげました」

この後、発表内容をもとに西江町長との意見交換が行われ、高校生たちは、自分たちの「思い」をさらに掘り下げて伝えました。

※掲載内容は一部です
―足立さん―

私の家の近所の公園などでも、英語の表記が見られます。「外国人にもやさしいまちづくり」を進める上で、事故防



止や安全面からも非常に良いことだと感じています。

―西江町長―

俱知安には多くの外国人住民がいます。その国籍はさまざまですが、そのすべての言語に対応するのではなく、日英2言語での併記が一番わかりやすいだろうと感じています。

また外国人観光客も全て英語で対応されることを望んではいないと聞きます。日本らしさや、俱知安らしさを大切にしながら、おもてなしができればと考えます。

―石館さん―

日々の暮らしの中で、狭い道や、街灯の無い個所で、危険だなと感じることがあり、そういった点から町の安全を守ることの大切さについて考えました。

―西江町長―

この町に長く住み続けるために、暮らしの安全は必要不可欠と考えます。

―打田内さん―

農高のおみせなどを通じてお年寄りの笑顔に触れる機会が多いのですが、町全体を見ると必ずしもそうとは言えないと感じます。お年寄りに配慮したまちづくりを進めることは、町全体の活気に繋がると 생각합니다。

―西江町長―

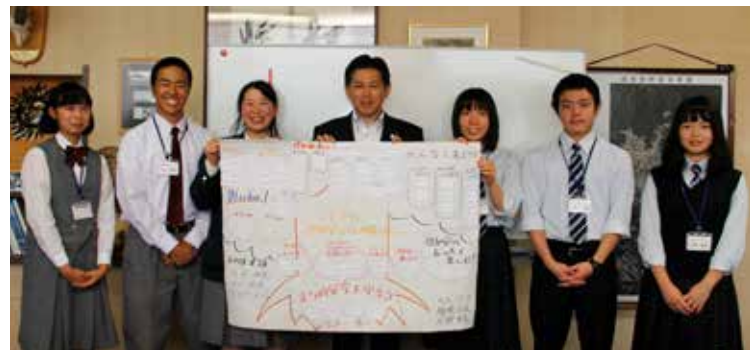
年配の方々からも、高校生や若者と交流する機会があれば、という話は耳にします。



この町をつくってきた大先輩たちと若い世代との交流の機会は、今後のまちづくりにおいて非常に重要です。

―荒木さん―

この二日間、西江町長や他校の生徒などいろいろな人の考えを知ることができました。そして、俱知安の未来について考える貴重な機会を頂きありがとうございます。この経験を今後活かして、これからも、さまざまなことに挑戦していきたいです。



―西江町長―
今回、高校生がまちづくりに対して、さまざまな意見を持っていることが分かりました。出てきた意見や提案の中で、出来るものは一緒に取り組んでいきたいと考えています。
町の魅力は何と言ってもそこに住む人や、町を応援してくれる人だと思っています。さまざまな人が暮らし、繋がりが濃いことが自慢の町なので今後もこの様な機会や、皆さんとの繋がりを大切にしていきたいです。